

巻頭言

長寿経済と金融ウェルビーイングのために

ページ
3

伊藤 宏一 (いとう・こういち)

千葉商科大学 教授

法政大学大学院哲学専攻博士課程修了。拓殖大学大学院経済学専攻修士課程修了。CFP®認定者・税理士。金融経済教育推進会議委員。日本FP学会理事。日本FP協会前専務理事。ライフデザインに基づくパーソナルファイナンス理論の発展、ウェルビーイング経済を土台とした金融経済教育の研究と教育に尽力。また循環経済・共有経済研究に従事。著書に『実学としてのパーソナルファイナンス』（編著 中央経済社）、『パーソナルファイナンス上下』（アルトフェスト著伊藤他訳日本経済新聞出版社）等。ダイヤ高齢社会研究財団理事。

フォーカス
高齢社会

ダブルケアラーの実態と必要な支援

—育児と介護を同時に担う若い世代介護者の Well-being 向上を目指して—

4

森山 葉子 (もりやま・ようこ)

国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究部 上席主任研究官

東京大学大学院医学系研究科社会医学専攻博士課程修了。博士（医学）、修士（経営学）。生命保険会社、医療経営コンサルタント会社勤務の後博士課程に進学、筑波大学助教を経て、2015年より国立保健医療科学院主任研究官、2021年より現職。専門は公衆衛生学、ヘルスサービスリサーチ、医療・福祉経営。研究テーマは介護者支援、地域包括ケアシステムの評価、ポジティブ心理学を用いたマネジメントなど。

Dia
Report

ダイヤ財団・オレンジクロス共催シンポジウム

「ストップ介護離職5 —サポートを100%活かす—」

8

先灘 信成 (さきなだ・のぶしげ)

ダイヤ高齢社会研究財団 企画調査部長

東京大学大学院医学系研究科保健学専攻修士課程修了。1992年明治生命保険（当時）入社、資産運用（国内貸付）、医事調査（保険事故発生率調査）、ヘルスケア事業（特定保健指導サービス開発）、団体年金（確定拠出年金）等の業務を担当。ダイヤ財団企画調査部次長を経て、2024年4月より現職。財団では、機関誌 Dia News の編集などを担当。

財団
研究紹介

高齢者施設における看取りケアの質向上へむけて

16

佐々木 晶世 (ささき・あきよ)

ダイヤ高齢社会研究財団 研究部 主任研究員

東京医科歯科大学医学部保健衛生学科看護学専攻卒。横浜市立大学大学院医科学研究科修了（医学博士）。東京医科歯科大学助教、横浜市立大学助教/講師、ダイヤ財団博士研究員を経て、2024年4月より現職。横浜市立大学客員講師。高齢者施設における看取りケア支援プログラム事業のほか、家族介護者や高齢者の健康増進、介護予防について研究を行っている。

Dia
Information

18

表紙撮影：吉羽健二郎氏「一輪の梅（茨城県常総市）」（2022年2月撮影）

※吉羽氏は、千葉県我孫子市で写真愛好家を対象に「448 SCHOOL」という写真教室をご夫婦で運営されています。